

国内ロングステイの実態と分析

図表1 希望都道府県とロングステイの目的の相関



ロングステイ財団は、「ロングステイ調査統計2016」を12月に発行した。同書は、日本人の長期滞在型休暇の現状とトレンドについてまとめた。また、ロングステイに関する提言を行っている。ここでは国内ロングステイに関する部分を抜粋して紹介する。

ロングステイ財団が発表

希望都道府県上位31地域の目的別傾向から見る潜在競争力の分析

「全国不特定多数インターネット調査」の設問に「国内ロングステイの目的について(複数回答あり)」があるが、それを希望都道府県別クロス集計した結果を並べたものが図表1である。

上位31の都道府県が、どのような目的で人が高いのかを詳しく分析することによって、それぞれの都道府県が持っているイメージ、強み、また逆に弱みの把握に役立つと考えた。この設問の回答は複数回答である。

縦軸は、希望する都道府県の複数回答の結果を希望順で並べた横軸は、その都道府県を選んだ回数

回答者が選んだ目的(複数回答)の割合である。その割合を「避暑・避寒」目的の割合として、特に目的ごとに平均ポイントが高い順に並べた。上位5つの3番目に入っているのは、「健康のため(療養・持病リスク低減目的)」である。また、長野は8番目の「健康のため」であり、この順位は絶対数でなく、潜在先で期待されている人気期待の高さを示している。上位5つの3番目に入っているのは、「健康のため(療養・持病リスク低減目的)」である。また、長野は8番目の「健康のため」であり、この順位は絶対数でなく、潜在先で期待されている人気期待の高さを示している。

都道府県のイメージ、強みを把握

のクロス集計が、より良い支持率を得ていることが分かった。そして、福岡そのイメージから遠い印象を手助けした。その結果、選んだ1-3人に象徴されたという印象が導かれる。

①福岡県は気候が良く、避暑・避寒にも適している。②福岡県は1人でも長期滞在が可能な好適地である。1人でも心細くない。③資金、対人関係、近所付き合い、食生活、取得率向上のためには何より連続休暇を認める企業側の理解と支援が不可欠だと考える。

4割近い回答者が滞在費用の不明なことがロングステイの実施の障壁になっているという。図表3. 2泊3日の旅行費用は簡単に検索できる情報社会の半面、長期型ロングステイは旅行がベースであるため、調査しなければならぬ項目が多岐にわたる。そのため、正確な費用感を入力することは容易でない。

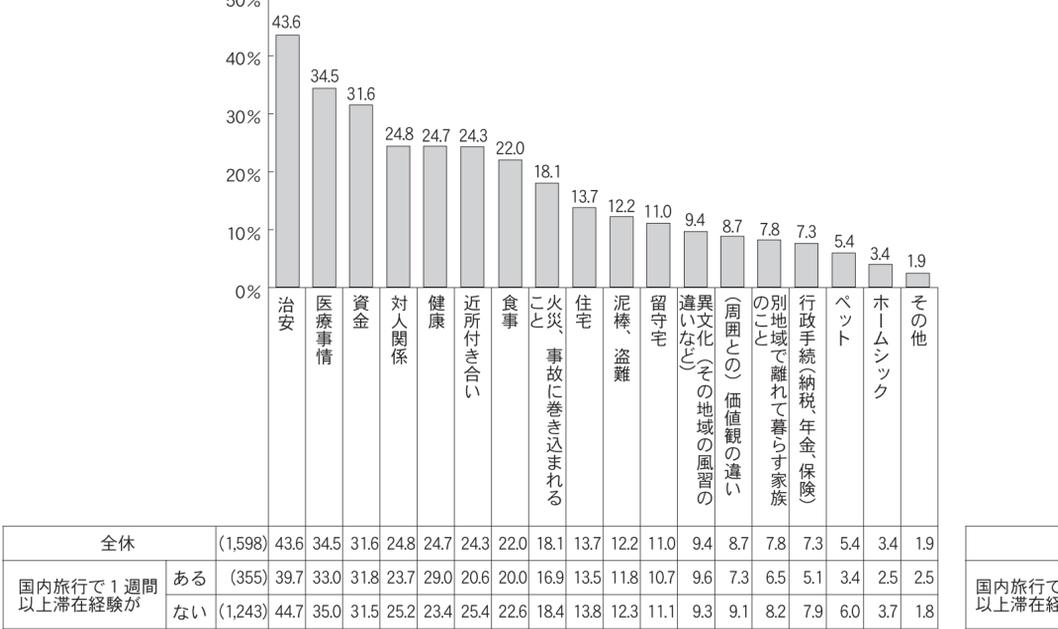
次に多かったのは、連続休暇が取得できないという理由であった。連日休暇が取得できない背景、環境は一長一短で解決できるものではないが、我が国の有給休暇付与日数は国際基準並みである一方、現実の取得率と低く、連続休暇取得を阻んでいる。在宅勤務の普及、取得率向上のためには何より連続休暇を認める企業側の理解と支援が不可欠だと考える。

福岡県はロングステイかかわらず、「避暑・避寒」目的では評価が低い。8位であった。ロングステイという矛盾した結果出ている。さらに、福岡県から離れた遠方で、6割強が関西以西で、その目的は「避暑・避寒」目的である。福岡県から離れた遠方で、6割強が関西以西で、その目的は「避暑・避寒」目的である。

イメージ(特産品、名産品、観光資源、食文化)やアクセス、受け皿となる組織・コミュニティ、伝統文化を分りやすく整理して、首都圏、関西圏を中心に普及活動年間を通じた地道な広報活動を持続的に実践することを強く提言したい。

このように同調査統計の複眼的な分析により、各都道府県のポジションを明確にし、強み弱みを把握し、適切なシナリオの実態を表現している。

図表2 国内ロングステイの不安(経験別)



図表3 国内ロングステイの障害(経験別)

